

みずぼうそう 水痘(水疱瘡)

水痘は水疱瘡ともいわれ、水痘・帯状疱疹ウイルスによって発症します。日本では春先を中心に毎年流行しており、軽度の発熱と水疱瘡の出現から痂皮（かさぶた）の形成を経て治癒する、予後良好な小児の病気です。新生児や健康成人、妊婦や免疫抑制状態の人では、重症化することがあり注意が必要です。水痘・帯状疱疹ウイルスは麻疹や結核と同じく空気感染するため、非常に強い伝染力を有します。家族内で水痘の発症者が出た場合、免疫がない人の感染を防ぐことはほとんどできません。

日本の水痘ワクチン接種率は、平成18年時点で35.7パーセントと、低い水準にとどまっているのが残念です。米国では同8年から定期接種に取り入れられ、水痘患者の著しい減少が認められています。実は、水痘ワクチンは昭和49年、世界に先駆けて日本で開発されたもので、岡株と呼ばれ世界中で広く用いられています。これは、岡さんという水痘患児から分離したウイルスを、弱毒化して用いていることに由来します。高い安全性を担保しながら、95パーセントの接種者が水痘への免疫を獲得し、20年後まで効果が持続する非常に優れたワクチンです。

水痘に感染すると、すべての発疹が痂皮化するまで、7～10日間は通園、通学が禁止となります。皮疹が引いた後に白斑が残ることがあり、美容上の問題を気にする人もいます。また、小児期に水痘に感染した人が高齢になってから帯状疱疹を発症することもあり、水痘ワクチンを高齢者の帯状疱疹予防のために接種することもできます。水痘ワクチンは1歳から接種できるので、お子さんが集団生活に入る前に、ぜひ接種を検討してください。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）